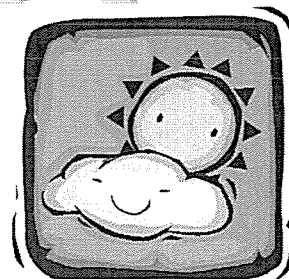




子どもと過ごす

年中行事



子どもと過ごす年中行事

～ 占冠村の行事編 ～

1 月

【 初詣 】

夜中に神社を訪れると結構人がいます。松明も焚かれていて、お神酒もいただけます。

お参りをした後にはぜひおみくじを！ 見たあとは木に縛って行く人が多いです。

破魔矢等も売っています。



【 どんど焼き 】

1 月15 日（日時是要確認）にお正月の飾りを燃やしています。

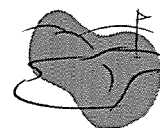
煙を体にかけてと健康で過ごせるという話を聞いたことがあります。

3 月

【 村民スキー大会 】

3 月上旬に行われるスキー大会。「チューブカーリング」は幼児の部・成人男子・女子の部があります。ぜひ親子で参加してみても？ お昼には豚汁が食べられるの～最高！ です。

占冠中央スキー場は無料です。スキー場のリフトはちょっと大変だけど、コツをつかめば簡単！ この大会めざして練習してみませんか？



4 月

【 野外体育施設オープン 】

天候や雪解けの状況がよければ、4 月下旬にオープンされます。パークゴルフ場等があります。詳しくは教育委員会(tel：56-2183)へ問い合わせしてみてください。



5 月

【 体育祭・運動会 】

保育所・小学校・中学校の運動会が5 月下旬から6 月にかけて行われています。

幼児が参加する競技が必ず入っているので参加してみても？

（歩けなくても親が抱こすればOK！）結構小さいお子さんが来していますよ♪

子どもと過ごす年中行事

～ 占冠村の行事編 ～



6 月

【 村営プールオープン 】

村営のプールは、トマムと中央の 2 カ所あり午後1時から5時まで開放され無料で入れます。中央は浅いプールと深いプールの間に柵があるので、間違っって深い方へ行ってしまうことはありません。暑い日はやっぱり水遊びが一番!!

お母さんも一緒に入ったらどうですか～



7 月

【 村民スポーツレクリエーション大会 】

村民なら誰でも参加できる村民の運動会です。ちびっこ競技もあるので足を運んでみては? 職域リレーでは、お母さん達でチームをつくり参加していますよ! 是非仲の良いお母さん達でチームをつくって参加して景品ゲット!! してみませんか?



8 月

【 ふるさと祭り 】

8 月の第 1 日曜に行われているお祭りです。出店者は地域の人たちばかりで、名前のとおりアットホームなお祭りです。美味しいものがいっぱい売っているので、お散歩がてら見に行ってみては。

お天気良い日は、日陰がなかなかないので帽子や日傘も必要かも。

前夜祭も行われ夜の花火は結構間近で見れてきれいです。

村外からも見に来る人いますよ～

【 盆踊り 】

各地区で行われています。子ども盆踊りの後には、子ども花火もあり、浴衣を着て参加する子ども達の姿もみえます。参加すると参加賞がもらえることもあります。

中央で行われる仮装盆踊りは、素踊りからいろいろな仮装をした人たちが踊っていて、見ているだけでも楽しいですよ。夜なので、虫対策や寒さ対策もお忘れなく。

子どもと過ごす年中行事

～ 占冠村の行事編 ～



9 月

【 占冠神社祭 】

お稚児さん（小学校入学前の子ども～保育所はと組～）や子供神輿が練り歩きます。それと一緒に演奏される占冠村の青巖太鼓は迫力満点です。一度間近でご覧下さい。道の駅などでは、お店をだしているの足を運んでみてはどうでしょう。お賽銭を集める子供たちがいますので、小銭を持っていくと良いでしょう。

【 収穫祭 】

占冠村の畑で取れた農作物が販売されています。人参（傷物）は無料でお持ち帰りできます！食べ物も売っているので、見に行ってみましょう

【 ふれあい広場 】

占冠村社会福祉協議会が主催する行事で、場所はデイサービスセンターで行われます。子供とお年寄りが一緒に楽しめるゲームもあり、お昼ご飯には、豚汁が無料で食べられて、他にもおにぎりなど100円で買えたり、小銭をもって遊びに行くと良いでしょう



10 月

【 紅葉まつり 】

農村公園で秋の収穫物が調理され販売されています。ナメコ汁やキノコご飯など、秋の味覚が盛りだくさんですよ！

11 月

【 占冠村総合文化祭 】

誰でも作品を出展することができます。見るだけでも楽しいですよ。すてきな作品があります。芸能発表では、青巖太鼓、神楽、高校生の吹奏楽演奏などあり、毎年どんな発表があるか楽しみです。

子どもと過ごす年中行事

～ 占冠村の行事編 ～

12月

【 国設占冠中央スキー場オープン 】

その年の積雪量によってオープン日は異なります。

ちょっと難しいリフトですが無料です。滑りたい放題！スキー場の下には、なだらかな斜面があり、ちびっ子にはもってこいの遊び場。スキー練習・そり滑り・転がっていくのも楽し～ですよ。



＊ 他にも・・・

観光協会主催の行事があります。その年によって異なる事もあるのでチェックしてみてね。

5月末

【 山菜市 】

道の駅でお店を出しています。村の方が食べ物をつくって出しています。

占冠は、ふき・うど・わらびなど山菜の宝庫。

前日に住民がとってきた山菜を生で売ったり、天ぷらにしたりしています。

鹿肉料理もおいしいスローフードを楽しむイベントです。



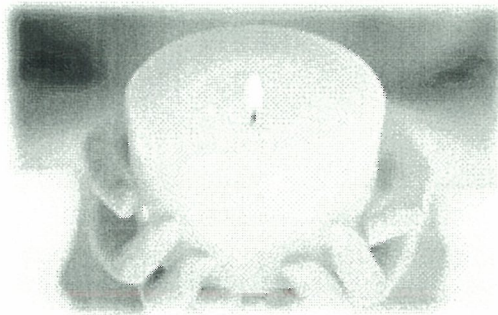
2月

【 ア이스キャンドルナイト 】

2011年には約2000個のアイスクャンドルが道の駅周辺を優しいあかりで灯しました。

自分のお家の前もぜひ飾ってみてはどうですか？

バケツに水を入れ外に置いておくれ！なんて簡単！占冠の寒さならではですね。



子どもと過ごす年中行事

～出産・育児編～

【帯祝い】（おびいわい）

～由来～

妊娠5 ヶ月の戌の日に安産を願って「岩田帯」と呼ばれる腹帯を巻くしきたりが「帯祝い」で、この慣習は江戸時代から始まったといわれています。

戌の日に祝うのは、犬のお産が軽く、たくさんの子が産まれるため、これにあやかるという意味からです。

さらに犬は魔物や邪気を追い払う力のある動物とされていました。「岩田帯」という呼び名は、岩のようにたくましく育てほしいという願いに由来しているといわれています。

現在では、5 ヶ月の戌の日に神社で安産祈願を済ませたお守りや、健康で無事産まれることを願いながら腹帯を身につけることが多いでしょう。

戌の日とは・・・十二支からきていて12日に一度めぐってきます。

戌の日カレンダーが販売されたり、インターネットでも簡単に調べることができます。

【お七夜・命名式】（おしちや・めいめいしき）

～由来～

赤ちゃんが誕生してから七日目を「お七夜」といいます。

産まれて初めてお祝いとなる日です。昔はこの日に命名式を行い、赤ちゃんの名前を披露したので「名付け祝い」とも呼ばれていました。

親しい間柄の長寿の方などが名付け親となり、助産婦や仲人夫妻などを招いて祝いました。

現在では、両親が名前を付けることが多いようですが、お七夜までに命名をし、この日に命名式を行う習慣は残っています。「命名書」に赤ちゃんの名前と生年月日などを書き、約一ヶ月の間飾っておきます。

命名書の正式な書き方としては、奉書紙または美濃紙に毛筆で記入しますが、最近では名前や生年月日を手軽に書き込めるように印刷されている「命名書用紙」が市販されているのでそちらを利用するのもよいでしょう。

子どもと過ごす年中行事

～出産・育児編～

【お食い初め】（おくいぞめ）（百日の祝い）

～由来～

「お食い初め」は子どもが一生食べ物に困らないようにという願いを込めて行う祝いの行事です。茶碗や箸などを買って揃えて祝い膳を用意し、赤ちゃんに食事の真似事をさせるというならわしで「箸始め」「箸そろえ」とも呼ばれます。生後百日目に行われるのが通例であるため「百日祝い」と呼ぶ場合もあります。正式には、茶碗に山盛りによそった赤飯の上に小さなおにぎりを2、3個のせます。鯛か鯉のすまし汁と魚（金頭か鯛）の焼き物、煮物、香の物、梅干をそえます。梅干をそえるのは、しわができるまで長生きするようにという意味からです。さらに丈夫な歯が生えるようにと小皿に小石を3個のせます。これを「歯固めの石」といいます。そして、昔のしきたりとしては、二の膳をつけ紅白のもちをそえました。

現在では、プラスチック製のベビー用食器一式を用意する家庭が多いようです。ちょうど離乳食の時期にあたることから、お粥や野菜スープ、パンケーキやプリンなど赤ちゃんが実際に食べれるベビーフードを用意する方もいるようです。

【お宮参り】（おみやまいり）

～由来～

お宮参りは赤ちゃんが無事に誕生したことを土地の氏神様に報告し、すこやかな成長を祈る行事です。

昔はお産が汚れたものとして考えられており、お宮参りは「忌み明け」として汚れをはらう意味を持っていました。そのため、忌み明けがすんでいないとされる母親は赤ちゃんを抱かずに、夫側か母方の祖母が抱いてお参りをしました。

日取りは、地方によって異なるところもありますが、一般的には男の子が生後三十日目、女の子が生後三十一日目、あるいは男の子が生後三十一日目、女の子が生後三十二日目に行うことが多いようです。

祝い着は男の子なら無地の一つ紋、そのうえに黒地に鷹や鶴などめでたい絵柄の「熨斗目広袖」を女の子なら朱色地に絵羽模様などの「友禅広袖」の祝い着をかけ、赤ちゃんを抱いた人の背中で紐を結び目にお守りを下げました。

子どもと過ごす年中行事

～出産・育児編～

【お宮参り】

現在でも、お宮参りをして赤ちゃんの健康と幸せを祈願する慣習は残っており、日取りとしては、生後三十日前後に行うのが一般的です。

お参りの仕方・・・神社で祈祷してもらう場合はあらかじめ社務所に申し出ておきます。謝礼の金額は神社によって決められているところが多いので、問い合わせでおきましょう。

表書きは「御玉串料」「御初穂料」として赤ちゃんの名前でお礼を納めます。

【初節句】（はつせつく）

～由来～

本来、節句の意味は、一年の特定の日（節）に神社に供え物を供えて子どもの健康と幸福を祈願することで「節供」とも書きました。そして、赤ちゃんが初めて迎える節供を「初節句」といい、この日には家族そろって盛大にお祝いをするならわしが昔から受け継がれています。

男の子の場合は「初幟（はつのぼり）」といって五月五日の端午の節句を祝い

女の子は「初雛」といって三月三日の桃の節句を祝います。

男の子の場合は、部屋に五月人形を飾り、外に鯉のぼりを立てて祝います。

祝い膳には、柏餅とちまきを添えます。

女の子の場合は、雛人形を飾り、ひな壇には桃の花、甘酒、菱餅、ひなあられなど飾ります。

祝い膳には、ちらし寿司、蛤のお吸い物、鯛の尾頭付きなどをならべます。

現在では、

昔は、家族だけでなく親戚や知人、近所の方々を招いて、大勢で盛大にお祝いをしたものですが、最近は、ごく身内だけで行うのが一般的となっています。

また、祝い膳も子どもたちの好きなメニューを並べ、その中に柏餅やひなあられを添えるなどしきたりにとらわれない家庭独自のお祝いが多くなっています。

子どもと過ごす年中行事

～出産・育児編～

【初誕生日】（はつたんじょうび）

～由来～

毎年誕生日を祝う習慣は、元来欧米から伝わり、今日のように定着したのですが、生後一年目の「初誕生」だけは、日本でも昔から受け継がれてきました。

この日には、家族や親戚が集まり、無事に一年目の誕生日を迎えられることを祝いました。医学が十分に進歩していなかった昔は、赤ちゃんが無事に一年目の誕生日を迎えられることは今日よりも難しく、それだけに喜びも大きかったのです。

初誕生日には祖父母や仲人、知人などを招き祝い膳としてスズキやボラなどの出世魚と呼ばれる魚や赤飯をたいて盛大にお祝いしました。

昔から伝わる習わしとして「立ち餅」「力餅」と呼ばれるものがあります。

この日には、餅をついて赤ちゃんの背中に背負わせ、立てるかどうかを見守り、成長を祝います。地方によっては、餅を踏ませたり、「初誕生日の前に歩き出すと成人してから家を離れてしまう」といって、赤ちゃんに大きな鏡餅を背負わせてわざと倒れさせるという風習も残っています。

現在では、家族だけあるいはごく内輪の人を呼んでバースデーケーキを囲みパーティーをする形が多くなっているようです。

【七五三】（しちごさん）

～由来～

七五三は元は武士の家で行われていた儀式にちなんだものです。男女ともに三歳になると髪を伸ばして結いなおす「髪置」という儀式が行われ、

男の子が五歳になると初めて袴を着ける「袴着」、女の子が七歳になると衣服の付紐をとって初めて本式の帯をしめる「帯解」という儀式が行われたのです。

やがてこれらをまとめて「七五三」と呼ぶようになりました。

今日のような11月15日に祝うようになったのは江戸時代以降といわれています。

子どもと過ごす年中行事

～出産・育児編～

【七五三】

～現在では～

もともとは数え年で祝いましたが、満年齢で祝ってもかまいません。上の子は数え年で下の子は満年齢として同じ年に一緒にお祝いをする、ということでもよいのです。日取りは正式には 11 月 15 日ですが、こだわる必要はありません。その前後の休日を利用してご家族の都合がつく日を選びましょう。

当日は晴れ着を着て両親とともに近所の氏神様に参拝します。

この日だけ着るのに一式そろえるには高いかもしれませんね、貸衣装もあるので、利用するのもいいかもしれません。

お参りの仕方は・・・

お賽銭を入れ、神前で鈴を鳴らしてから、二礼二拍手一礼をするのが基本です。

参拝して末永い健康を祈願するだけでも十分ですが、丁寧にする場合は、神官にお祓と祝詞を奏上してもらいます、神官にお願いする場合は「お宮参り」の参拝の仕方を参照してください。

参考までに・・・

占冠神社は山部神社の神官が兼務しています。

占冠神社で祈祷を行いたい場合は、山部神社へ問い合わせてみましょう。

山部神社・・・電話番号 42-3383